

大崎市岩出山の市職員氏家国浩さん(44)が、写真集「慈悲の花」を出版した。写真の大半は、3年前に上咽頭(いんどう)がんと診断され、闘病生活を送った後に撮影された。現在は健康を取り戻したが、「自分を立ち直らせるために撮った」と話している。

大崎の氏家さん出版

がんの診断を受けた2007年夏の数カ月前から今年春にかけて撮影した60点を収録。多くが花の写真で、民家の軒先や空き地の花がたくましく咲く姿を切り取った。

「不安にかられて、身近な所にある光を探していた」と氏家さん。「がけつぶちに立ったとき、死を思うのは人間だけだと思う。花は生きることだけを考えていると感じ、シャッターを切っていた」と振り返る。

写真には「自然は繰り返し、ただ繰り返す」など、氏家さんの言葉も添えられている。

氏家さんは15年ほど前から本格的に写真撮影を始め、09年、アマチュア写真家を対象とした酒田市土門拳文化賞の奨励賞を受賞した。この時に出品した30点の組み写真の中の20点も写真集に収められている。

A5判で、名古屋市の出版社に依頼して自主制作した。13000円。連絡先は氏家さん02229(78)2825。写真集「慈悲の花」を出版した氏家さん

生への思い写真集に

がん克服花の力強さ表現

